

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム社の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成23年9月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く 生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対するバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

お花のお好きな利用者がおられ、テーブルには毎日お花を飾るようにされている。利用者が「この花は何という花かな？」と聞かれる等、お花のことが話題に上がることもよくある。調査訪問時には、コスモスを生けておられた。玄関先の壁飾りを利用者のご家族が月1回模様替えてくださっており、調査訪問時には、紙で作ったトンボと獅子舞を飾ってくださっていた。テレビの近くに新聞を置いて、利用者が手にとれるようにされていた。
「24時間生活変化シート」には、ご本人、ご家族の言葉や願い、職員の気付き等を記入し、利用者個々の思いや意向を探っておられる。ご家族から利用者ご本人の以前のことをお聞きして、話題にすることもよくあり、利用者とお話も弾むようだ。以前の写真を見ると明るい表情になる方もおられるようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム杜の里

(ユニット名) こもれび

記入者(管理者)

氏名 佐伯 伸治

評価完了日 平成23年 9月 28日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者を尊重し、その人に合った生活の支援となるように職員は努めている。勉強会・研修などの参加で知識や支援を向上させ、理念を共有している。	
			(外部評価) 開設3年目に作成された「あせらず あわてず あきらめず 手の届く 目の届く 心の届く 生活を支援します」という事業所理念は、職員室や居間に掲示されている。さらに、グループホームはチームケアが特徴でもあり、理念を利用者とともに支えるご家族や地域の方達とも共有していけるよう発信していかれてはどうか。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 盆踊りやバザー等の企画を設け、利用者の家族様や近隣のスーパー、学校などに声かけやチラシを配布し、職員と共に活動し参加していただいている。	
			(外部評価) 地域の小学生のラジオ体操の場所として、夏休みにホーム駐車場を提供されており、体操の音楽が聞こえると、利用者も駐車場に出て一緒に体操をされた。又、地域包括支援センターからの依頼で、小学生の「高齢者との接し方」の授業のために、地区の他グループホームと合同で小学校の先生対象に認知症の勉強会を行われた。今後、小学生に事業所に来てもらって利用者と一緒にふれ合うような機会も作りたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 包括支援センターの協力を得て、同地区の他のGHとも協力し、小学校の先生を対象として認知症高齢者についての勉強会などを開催するなど少しずつではあるが発信できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議では評価後の今後の取組み目標・達成状況を報告する機会も設けている。地域の方々からの提案・意見を多く頂き、サービスに反映出来るよう努めたい。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>バザー等の行事と合わせて会議を行う等されている。会議では、外部評価の報告をされたり、避難訓練や防災・看取り支援について意見交換をされている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加していただいた際に、相談を行ったり、情報を頂いたりする機会はある。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に地域包括支援センターの担当者の方から研修会の情報を教えていただいたり、備蓄の準備についてアドバイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の家族様と話し合いながら、利用者に応じて安全確認・予防のためにベット柵やセンサーマットを使用している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>現在、ベッドからの転落防止のため就寝時にベッド柵を付けている方もある。「帰りたい」という気持ちになり外に出かける利用者には、ご本人の気持ちが落ち着かれるまで職員が付き添うように支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員一人一人が利用者への思いやりを持ち、観察・声かけを促しながら穏やかに過ごせるように努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 月に1回勉強会を設け、成年後見制度について学びながら個々の必要性を話し合っている。又、情報交換しながら理解し、説明を行いよい関係作りに努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書に沿って説明・相談を行っている。又、契約以前から契約後も随時ご家族の不安や疑問に関してお話しして頂けるような関係作りに努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアプランの確認を頂く際、来荘いただけのご家族には直接説明し、ご家族からのご意見・要望をうかがっている。なかなか来荘されないご家族にも文面にてケアに対する要望を頂き、サービスに反映出来るよう取り組んでいる。 (外部評価) 行事や日常の写真を載せた「杜の里だより」と、利用者一人ひとりの日々の様子を書いた手紙に写真を添えて、毎月、ご家族に送付されている。ご家族の中には、担当職員に暑中見舞いをくださる方もいる。ご家族からの希望もあり、入居間もない利用者の「24時間生活変化シート」を3ヶ月間見ていただいたこともある。	運営推進会議の内容についてもご家族に報告することを考えておられた。事業所を利用する側であるご家族からの意見や要望は事業所のサービスを良くするためのきっかけでもあり、食事や入浴、外出支援等、具体的に意見や要望を引き出せるよう工夫を重ねていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングでの話し合いではそれぞれ意見し話し合っているが、個人的な意見や提案などは前進せず、途中でまりのことが多く見受けられ反映されていないと感じる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のミーティングで外部研修の報告を行われている。管理者は、職員がミーティング時には「意見を出しにくい」ことに配慮して、意見や要望等は個別に聞き取るようになっている。管理者は、利用者主体に取り組めるよう、職員に「利用者がこうしたいんじゃないかと考えてみる」ことを話しておられる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>勤務体制などは個々の希望の休みを優先して、無理のないようシフトを組み、働きやすい状況を作っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティング時にはみんなで勉強会などの時間をとり、とても参考になっている。また研修に積極的に参加できるように声を掛けており、仕事のやりがいにつながっている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム同士の交流会・相互評価などに参加し、互いに評価しつつ参考になることも多く意見交換なども積極的にできている。管理者・職員も同業者と多く交流する事により、見えていない部分やサービスの質の向上につながっていきけるのではないかなと思う。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>サービス提供前に、利用者様としっかりと面談を行い、不安なく生活の場所が移動できるように努めている。また、これまでの関係者の方にも協力が得られるような連携作りを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス提供前にご家族とゆっくり面談できる時間を持ち、ご家族の不安や、グループホームでどのように生活を送って欲しいかなどのご希望を聞き取れるよう話し合えるよう努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居相談時に、グループホーム内だけのサービスにだけでなく、買い物・理髪・通院・リハビリなど必要なサービスが受けられるよう相談し、支援に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の知恵や生活歴を活かし、それを聞き出しながら持ちつ持たれつの関係ができるよう、職員も意識し、支援に努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のお手紙で近況報告したり、ご来訪された際にご家族様のご意見を聞き、実際にそれを取り入れ業務にあたっている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>友人や知人など馴染みの方の来訪もあり、一緒に外食へ出かけたりもしている。そのような来訪の少ない方にも馴染みの場所へお連れするなどの支援をしていきたい。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>学生時代の友人と外食に出かける利用者や、お若いころ住んでおられた九州にご家族と一泊旅行された方もいる。友人やお孫さんと手紙のやり取りをされている利用者は、母体病院にリハビリに行く際等に手紙を投函されている。お孫さんからのお返事に写真が同封されている際は、ご本人は特に喜ばれ、職員に見せてくださるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が関わりを持ち、1人1人が孤立しないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も状況に応じ必要な支援・相談ができる関係作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人とゆっくり話す時間があればとは感じているが、なかなかゆっくりと話す時間は持てていない。ご家族にも話しを聞き、ご本人に合った暮らしが出来るように努めている。	
			(外部評価) 「24時間生活変化シート」には、ご本人、ご家族の言葉や願い、職員の気付き等を記入し、利用者個々の思いや意向を探っておられる。ご家族から利用者ご本人の以前の事をお聞きして、話題にすることもよくあり、利用者とのお話も弾むようだ。以前の写真を見ると明るい表情になる方もおられるようだ。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方など把握し、ご本人に合った暮らしが出来るように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) スタッフ同士の申し送りを行えており、大事な事はメモなどに書いて目に付くところへ貼るようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人がよりよく暮らす為に、日々の疑問に思う事は職員同士で話し合っている。又ご家族の方にも意見を頂戴し、その人に合ったケアに役立てている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のミーティングで介護計画について評価し、3ヶ月に1度見直しておられる。利用者個々の担当職員は、毎月、介護計画の中から力を入れる項目を挙げておられ、毎日 ×方式でモニタリングして変化があればコメントを書くようにされている。「温泉に行きたい」「お手伝いがしたい」という利用者の具体的な希望をもとにして、計画を立てておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員同士の連絡・伝達は申し送りノートやメモ等を活用している。24時間シートも活用しており、その時に起こった出来事、状態等を個別に記入し、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の意見を大事に、グループホーム内だけの生活にとらわれず、ご友人・ご家族と外出したり、コンサートや温泉施設の利用など柔軟なサービスが提供できるよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>町内の方々の協力を得ながら、地域行事への参加や買い物など地域の中で安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前から通っていた病院に定期的に通院されている方もおられる。又定期的な往診もあり、その都度その方の状態をお伝えし、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>2週間に1度、母体病院の医師の往診があり、緊急時には24時間連絡できる体制になっている。週1~2回、母体病院にリハビリに通う利用者もいる。週1回、母体病院の看護師が利用者の様子を見に来て医師に報告して下さるようになって</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週に1回NS訪問があり小さいことでも伝えられる事は良いが、通院の日と同じ日であるので、違う日が好ましく思う。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族と相談を行い入院中も出来る限りの支援を行っている。又、往診や通院などで病院関係者との関係作りは行えており、早期退院できるよう相談に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早い段階から重度化した場合の指針を説明し、ご家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用契約時、看取りの指針にもとづき説明をされ、利用者、ご家族からの看取り支援の希望がある場合は、ご家族と協力しながら支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に勉強会を行っており、職員の知識向上に努めている。又、緊急時の対策マニュアルを作成し活用しているが、緊急時はあせりもあり、スムーズに対応できないときもある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防の方の指導の下、避難訓練を実施している。又、災害時対策マニュアルを作成しており、空いた時間に見られるように他のマニュアルと同様にファイルに挟んでいる。 (外部評価) 今年、スプリンクラーを設置された。災害時のために、ロープやヘルメット、ラジオ等、少しずつ物品を揃えておられるところである。避難訓練時、職員は火災通報装置を使って実際に通報し、消防員から指導を頂いたり、消火器の使用方法を習ったり、職員が利用者役になって毛布に乗せて引っ張って避難させる体験をされた。	夜間想定避難訓練や職員の体制や利用者の状態等も踏まえて、いざという時にすべての利用者が安全に避難させることができるような方法を考えていかれてほしい。
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人に対して、その時に応じた声かけをしている。傷つけないよう言葉に気をつけて、利用者の気持ちを考え声かけするようにしている。 (外部評価) 職員は利用者を目線を合わせ、トーンにも配慮した言葉かけを心がけておられる。現在、利用者全員が女性であり、入浴時に同性介助を希望する方には応じておられる。利用者の状態によって、ベッドで過ごす時間が長いような方も、居間でみなど過ごす時間が作れるように支援されている。居室に置いておられるおむつ等の介護用品等の整理についても、利用者の立場に立って配慮されてはどうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に何がしたいのか聞きだして、ご自分でしたい事したくない事をきちんと聞いてできている。希望により出来ないことはその都度スタッフで相談してなるべく希望に近づけるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の話を聞き、その方に合ったペースで対応するように努めている。介助が必要な方は、見守りやさりげなく支援できるように心がけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族様と一緒に美容室へ行って毛染めされる方もいらっしゃる。散髪の方が概ね2ヶ月に1度来られている。洋服はご本人の希望やご家族様の希望を優先して季節に合った洋服を着ていただけるよう努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜を下さりえして頂いたり、食事の準備や後片付けなどをお手伝いして下さるときもある。利用者の好みを聞き、メニューに取り入れたいものもしている。色々な食材を使い、その方に合った形状にし、食べにくい物は寒天などで固めたりしながら食べやすいようにしている。	
			(外部評価) 職員の人手不足のこともあり、食事はお弁当を取っていたような時期もあったが、「利用者に手作りの食事を食べていただきたい」という職員の思いから、食事作り専属の職員を配置して事業所で食事を作るようにされている。食べ物に制限があるような利用者もおられ、医師の指示で果物を食べることができない方には「寒天ゼリー」に替えたり、食事を残しておられる方には職員がそっと「おいしいから食べてみて」と声をかける等されていた。利用者の誕生日には、ケーキと希望のメニューでお祝いされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量は出来ている。肉・魚・野菜などのバランスが良い時と悪い時があるが、昼が肉なら夜は魚にするなど、出来るだけ工夫するようにしている。又、嚥下が困難、歯がない方にはミキサー食や刻み食にして食べやすいように支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 介助を要する方への口腔ケアは出来ているが、自立されている方は歯間に汚れが見えるときがある。又昼食後は出来ない方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々に合わせてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っているが、トイレに座れる方でもオムツ対応のときがある。統一する必要があると感じる。	
			(外部評価) 退院して来られ、機能低下がみられる利用者もあるが、表情や様子等をみながら、トイレで排泄ができるよう誘導等して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) イーージーファイバー・乳製品・水分・寒天などを利用し、できる限り自然排便を促すよう努めており、毎日習慣づけることが必要である。	
			(外部評価) 入浴拒否が続く方には声かけ、タイミングなど利用し本人の意思を尊重している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 事業所では、一日おきに入浴するように支援されているが、ご本人の希望等があれば毎日入浴もできるようになっている。お風呂を嫌がる利用者には、「着替えが届きましたよ」「明日は病院に行くのでお風呂に入ってきれいにしておきましょう」等、その時の状態に合わせて声かけをすることで、入浴につながるようなこともある。重度化した場合や胃ろうを造設されている利用者は、職員が2名体制で浴槽で温まれるように介助をされたり、洗い場にマットを敷いて体を洗う等して支援されている。	
			(外部評価) 日中に外出や散歩をして夜に気持ちよく眠れるように支援している。又、利用者の状態に応じて居室や畳コーナーで横になって休んでいただいている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書のファイルを作成しており、常に見れるような場所に保管している。又、薬の増減など申し送りノートなどを活用し把握に努めている。全ての薬の目的、副作用、用法、用量については把握できていないと感じる。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 縫い物が得意な方には雑巾を縫っていただき、又ドライブが好きな方が多いので、時々ドライブに出かけるなどして気分転換できている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 普段買い物へ行く際には声かけをし、一緒にいけている。又、ご家族と相談し、コンサートを見にいかれた方もいる。地域のイベントや季節の行事に出来るだけ参加できるように努めている。 (外部評価) 全利用者のご家族も参加して、お花見に出かけ楽しまれた。又、ユニットごとに回転寿司で外食されたり、利用者から「コスモスを見に行きたい」という希望があり、現在、外出の計画をされている。調査訪問時、ご家族とお墓参りをして食事をすませて戻って来られた利用者もおられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の人ではあるが、個人でご友人と外出する際にお金をお渡しいたり、盆踊りやバザーなどのイベントに出かけた際に希望があれば、使えるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ほとんどの利用者様はやり取りすることは難しいが、年賀状を出しておられる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾り、気持ちよく生活できるように工夫している。利用者の方の生活の一部を写真にして部屋に飾っている。	
			(外部評価) お花のお好きな利用者がおられ、テーブルには毎日お花を飾るようにされている。利用者が「この花は何という花かな?」と聞かれる等、お花のことが話題に上がることもよくある。調査訪問時には、コスモスを生けておられた。玄関先の壁飾りを利用者のご家族が月1回模様替えしてくださっており、調査訪問時には、紙で作ったトンボと獅子舞を飾ってくださった。テレビの近くに新聞を置いて、利用者が手にとれるようにされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置き、一人になれるようにしたり、玄関のベンチで庭をみながら外を見て気分転換できるように居場所の工夫をしている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人が使っておられた家具などを使用している。介護状態により、その都度ご家族とも相談しながら居室の配慮を行っている。	
			(外部評価) 仏壇や位牌を置いておられたり、ご家族の写真や好きなタレントのポスターを貼っている方もいる。発語の少ない方は家族の意向で刺激になるようにラジオをかけたりされている。県や市から頂いた感謝状を飾られていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの表示をし、利用者本人が確認できるようにしている。家事に参加してもらい、自立した生活が送れるように援助している。	
			(外部評価)	